



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2021年10月27日発行

SERVE TO CHANGE LIVES
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

会長 熊谷祐司/副会長 鶴田秀樹/幹事 森崎正治/SAA 澤井一徳

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

2021-22年度

TEL 0848-86-0986・FAX 0848-86-0992・E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

国際ロータリーテーマ

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

10月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
例会 休会 地区大会 例会 プレ公式

本日のプログラム (10月27日)

中川ガバナー補佐 プレ公式訪問

次回のプログラム (11月11日)

杉川ガバナー 公式訪問 (竹原 大広苑)

第1214回 2021年10月20日 例会記録

(コロナ禍の為 2021年4月21日以降 半年ぶりの12:30~13:30までの通常例会)

点 鐘 熊谷会長

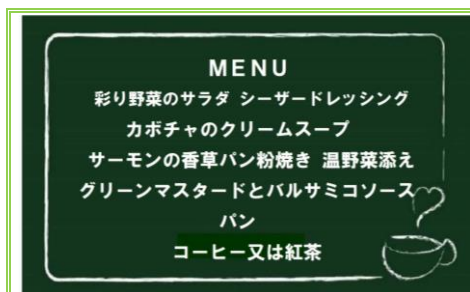
ロータリーソング「奉仕の理想」

ロータリアンの行動規範唱和

出席報告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (10/20)	28 2	21 0		4 3	84.00
メイク					
前々回 (10/6)	28 2	22 0		4 2	84.62
メイク					

食事時間



佐々木正親 会員 ポールハリスフェロー
認証状・ピンバッチ贈呈



会 長 時 間



皆さんこんにちは。
 年次総会1カ月前に、皆様に承認をいただく件がありますが今年度11月前半に休会が続き、公式訪問もありますので、本日にさせていただきます。

12月15日に年次総会を開催する予定になっておりますが、クラブ細則で年次総会の1ヶ月前に年次総会の議長(会長)は、次年度役員候補者の使命を求めらるることとなっております。候補者選定には2つの方法があり、若干の元会長と理事、役員で構成する指名委員会で推薦する方法と、出席者全員で推薦した方に承諾を得る方法があります。例年は、指名委員会で推薦する方法で行っておりますが、今年度も同じ様に指名委員会で推薦する方法とさせていただきます。よろしいでしょうか。

全員一致の拍手で承認

理事会が指名委員会になりますので、12月8日の理事会で上程の承認を受け、年次総会にて皆様のご審議を賜りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

幹 事 報 告

《配布物》卓話資料

週報 1212. 1213 回・会費のお願い
 理事会報告・お食事券

《回 覧》近藤様より御会葬お礼・例会出欠表
 2780 地区より世界ポリオ根絶サミットのご案内 10月24日
 日本のロータリー100年史
 クラブに1冊頂戴しました。
 (購入希望の方は6,600円税込み・送料別)

日本のロータリー100年の軌跡をあなたの本棚に ロータリー日本100年史 クラブ事務所に

ロータリー日本100年史編集委員会

1セット贈呈



「ロータリー日本100年史」を6月末に発行いたします。クラブ事務所に7月下旬から、1セットを贈呈いたします。



先着順です!

お早めにご予約ください!

クラブ贈呈出版のため
 少部数をお蔵者に先着順予約販売いたします。

卓 話 時 間



桐島勝利 会員

「地球温暖化について」

10月 米山月間



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

Vol. 259
 2021年10月13日
 発行

1. 米山月間の由来

国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間に加え、日本独自の月間テーマとして、10月は米山月間となっています。なぜ、10月なのでしょうか?

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日~7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月で

は各クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多い、など現実的な障壁があったためです。そして何よりも、東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。



4. 道路のゴミ拾いで再始動 — 第2770地区学友会 —

緊急事態宣言が解除されて2回目の週末となる10月10日、第2770地区(埼玉県南東)米山学友会が主催する「クリーンアップウォーキング」が行われ、学友と奨学生、ロータリアンら総勢26人が参加しました。

このイベントは、コロナ禍でほとんど休眠状態となっていた同学友会が、地域への貢献とともに、奨学生や若い学友たちにもっとロータリーファミリーとしての体験をしてみら



いたいと考えた企画です。10日はその第一弾として、同地区第1グループの区域にあるJ R浦和駅から別所沼公園までおよそ2kmの道中を、三人一組でゴミを拾いながら進みました。今後も地区内第2~12グループで同様の活動を実施できるように、日程を調整中ということです。

同学友会会長の金正録さん(2011-13/大宮西RC)は、「ようやく現役奨学生との交流を深めることができた。ゴミ拾いをした人はボイ捨てをしなくなるし、綺麗になった道に戻りながら皆充実感でいっぱいになった。自分の子どもと一緒に参加したが、良い体験をさせることができた」と、語ってくださいました。



写真提供: Jeon Min さん

5. 大学学長に就任した米山学友

現在、京都精華大学の学長を務める米山学友のウズビ・サコさん(マリ/1992-94/京都北RC、現同クラブ会員)。高校卒業後、中国の北京語言大学、南京東南大学を経て来日した経歴の持ち主で、専門は空間人類学。2001年に同大教員として着任し、2018年4月より学長に就任しました。最近では、著書や新聞寄稿、ニュース番組のコメンテーターとして、日本社会や若者へ多様性や共生の在り方を問うメッセージを発信しています。

今年6月24日の日経新聞「交遊抄」で、ウズビ・サコさんの寄稿が掲載されました。タイトルは「低姿勢な父」。父とは、ウズビ・サコさんの奨学生時代のカウンセラー、小野内会員のことです。

「お金をもらいにクラブに行く」と「世話人」なる男性が現れた。家まで送ると言い、車の後部座席のドアを開けてくれる。この奨学金は運転手までつくのかと感心した。後に日本人女

性と結婚する際も、小野内会員が実父かのように口添えてくれたエピソードを経て、「マリでは企業の重役は車の後部座席のドアを開けたりはしない。でも、地元の名士である小野内さんは院生の私にそうしてくれた」「私も今は学長という職にあるが、誰に対しても低姿勢でフラットに接したい」という文で結ばれています。

サコさんのように、多くの米山奨学生はカウンセラーやロータリアンの振る舞いから学びます。コロナ禍が落ち着き、この事業の真髄である交流が各地で再開されることを願わずにはいられません。

